

第2章「やさしさ ふれあい 人と自然」 <つづき>

<前のページ右下からの続き>

○誰もが住みたくなる心かようまちづくり

これまでも住民と行政との協働によるまちづくりを推進するために、住民が主体となったまちづくり活動への支援を行ってまいりましたが、引き続き住民がまちづく

りへの参加ができるよう、取り組みを行ってまいります。次に、新たに土砂災害特別警戒区域への住宅対策として改修工事補助金を創設するほか、土砂災害ハザードマップの作成、防災行政無線デジタル更新事業等を行い、自然災害への対策を推進してまいります。

第3章「町の中と外から関心を持たれる教育のまちづくり」

○みんなでチャレンジする生涯学習のまちづくり

文化会館は、生涯学習の拠点として活用されておりますが、施設や設備の老朽化が進んでいることから、空調設備の改修工事を予定します。

また、他地域や海外の人材と積極的に交流できる機会を提供するため、友好交流を締結した神津島村での洋上セミナーのほか、海外との交流として、オーストラリアへの海外派遣事業及びホームステイでの受け入れ事業などを引き続き実施いたします。

○豊かな能力と強い心を育むまちづくり

各学校における施設や設備については、氷川小学校の水道直結化工事、古里小学校の体育館非構造部材耐震化事業、奥多摩中学校では西側トイレの改修事業、水道直結化実施設計委託を実施し、児童・生徒が安心して教育を受けることができるよう教育環境を整備いたします。

また、全ての学校に教員の負担軽減と効率化を図るため、校務支援システムを導入し、各種帳票・管理作業の電子化並びに学校間グループウェアが利用できる環境を整備します。

○誰もがスポーツ活動に参加するまちづくり

昨年、第1回を開催しましたスポーツフェスティバルにつきましては、町民のスポーツへの参加を促進し、健康増進につながるため、さらなる検討をすることのほか、東京2020大会パラリンピック正式種目であるボッチャなどのニュースポーツにつきましてもさらに推進してまいります。

また、スポーツ関連施設の活用として、川井スポーツ・コミュニティ施設の改修工事を予定しております。

○伝統と先進の文化・芸術にあふれたまちづくり

町内の郷土芸能を次代に確実に継承するために、一巡した郷土芸能の映像保存について、新たな映像記録保存事業を実施してまいります。また、児童・生徒による継承事業として、笛の演奏体験授業や氷川獅子の実施など郷土芸能の将来の担い手の育成を図ります。また、獅子頭や衣装整備等を計画的に実施し、民俗芸能の用具が適切に維持管理できるように支援を行います。

第4章「みんなの力がつながる観光・産業づくり」

○住民が元気になる交流観光づくり

町内全域が、秩父多摩甲斐国立公園に含まれている当町には、その豊かな自然を求めて年間、212万人を超える観光客が訪れていると推計されております。近年、公共交通機関を利用する観光客が多く見受けられ、ハイシーズンには、奥多摩駅前、バスの乗車待ちが長蛇の列になることや外国人観光客が顕著に増加していることなどが感じられます。

今後も観光によるまちづくりを推進するべく、日本一観光用公衆トイレがきれいなまちを目指し、奥多摩駅前観光トイレ改築事業や観光トイレの改修、クリーンキーパーによる観光用公衆トイレの清掃を引き続き実施し、イメージアップと観光客数の増加に努めてまいります。

○奥多摩ならではの地域産業の推進

森林再生事業による森林環境の整備や木質バイオマス

推進事業による木質資源の活用を引き続き実施いたしますが、31年度は重要施策としまして、内水面漁業環境活用施設整備事業を活用して、大丹波国際釣場管理棟の建設整備を実施し、各釣場の特色を活かし、外国人観光客や障害者、小さな子供連れでも楽しむことのできる釣場の整備を進めてまいります。

○観光・産業づくりを推進する力の強化

奥多摩観光協会やおくたま地域振興財団等の関係団体と連携しての各種イベントや事業の実施に加え、他団体の実施するイベントへの出展により、魅力あふれる奥多摩町の観光や特産物等の情報を提供するほか、多言語対応の観光パンフレットを新規で作成することで、外国人旅行者を含めた観光客の誘致につなげてまいります。

<施政方針は8ページに続く>